

高司小学校区まちづくり計画

～好きです わがまち・高小校区～
小さな点から長い線へ 半歩ずつでも休まず前へのまちづくり

2006年3月
高司小学校区まちづくり協議会

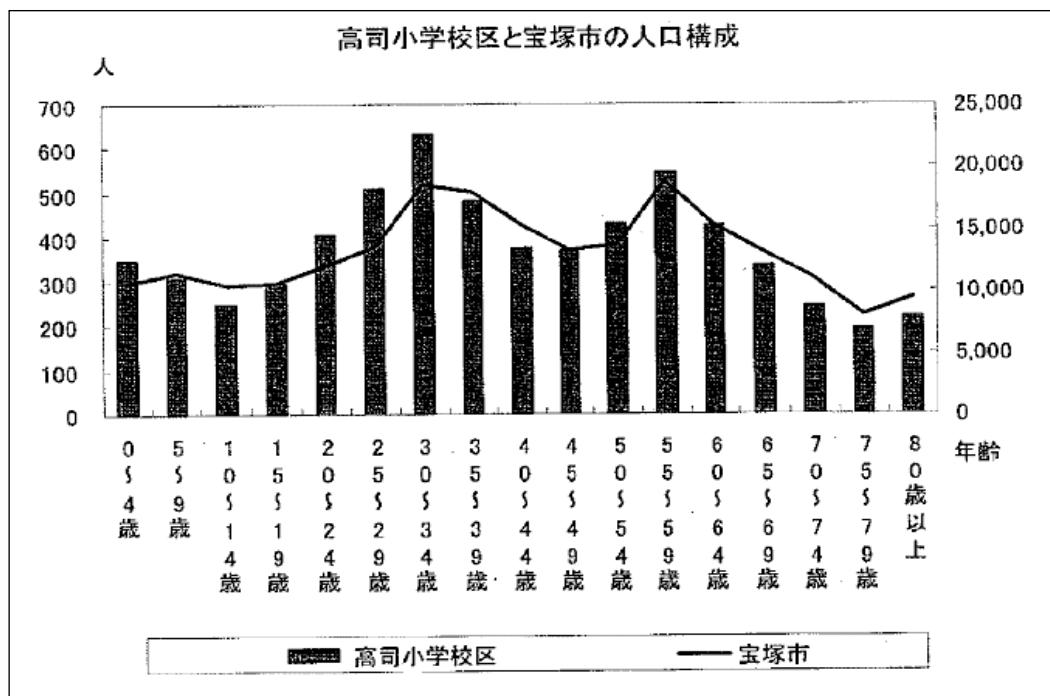
私たちのまちの今	1
高司のまちづくり計画に込めた思い	3
1. みんなで楽しく ふるさとづくり	4
2. 快適で魅力あふれる まちづくり	7
3. みんなが気軽に集う 場所づくり	10
4. 安全と信頼でつながる 暮らしづくり	13
5. 安全に行き交う 道づくり	15
計画を実施していくために	20

私たちのまちの今

私たちのまちは、宝塚市の南に位置し、西宮市、尼崎市の一部に接する面積 183.1ha に、2,639 世帯、6,382 人(平成 18 年 1 月現在)が暮らしているまちです。

私たちのまちの世帯数・人口

地区名	世帯数	人口	男性	女性
大吹町	376	883	427	456
駒の町	20	66	34	32
高司 1 丁目	541	1,143	566	577
高司 2 丁目	522	1,200	601	599
高司 3 丁目	478	1,208	593	615
高司 4 丁目	270	750	356	394
高司 5 丁目	276	777	395	382
美幸町	156	355	163	192
高司小学校区計	2,639	6,382	3,135	3,247



資料：宝塚市統計資料

明治 22 年に伊子志、小林、蔵人、鹿塩の 4 村が合併して良元村となり、昭和 30 年に良元村、小浜村、西谷村、長尾村が合併して宝塚市が誕生し、高司、美幸、大吹、駒の町に名称変更となりました。

昭和 30 年代頃までは一面が田畠で、その後 40 年代頃から急速な宅地化が進み、55 年には未成小学校、良元小学校、仁川小学校より分離し、高司小学校そして高司中学校が新設される人口に増加しました。

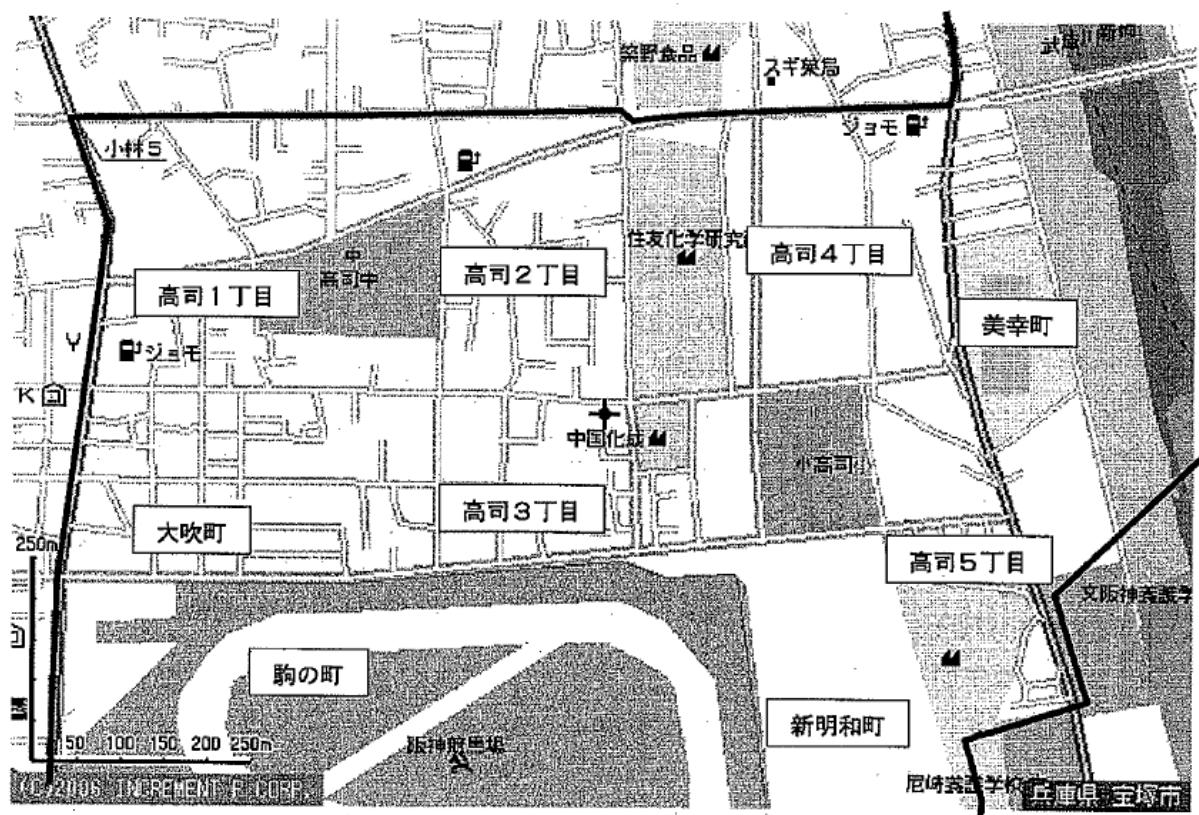
阪神競馬場に隣接し、武庫川に流れる御所川をはじめとする幾多の水路が特徴の地区内には、工場もたくさん立地しています。江戸時代前期の優れた神社建築の殿、桃山時代の平法

が見られ、県の重要有形文化財に指定されている素盞鳴神社（高司2-14-6）があります。この神社は度重なる武庫川の決壊の被害を受けた村人が氏神として素盞鳴命を奉斎し、祈願したのが始まりといわれています。

また、（社福）ひょうご障害福祉事業協会が運営している阪神自立の家（美幸町11-16）は、50人のハンディキャップをもつ人が入居されており、障害者ではなく社会を構成する大切な人間として普通に生活していくという英国の「チェシャーホーム」の理念を受け継いだ施設として、地域の交流の一角を担っています。

スポーツ施設として高司グランドがあり、土曜・日曜日は少年野球大会やサッカー、ラクロスの練習に注目されています。阪急今津線小林駅、仁川駅が最寄り駅であり、スーパーなども立地している比較的利便性の高いまちですが、図書館や公民館は立地していません。

私たちのまち



高司のまちづくり計画に込めた思い

「まちづくり」と言われても、いったい何をすればよいのか見当がつきませんでした。しかし、みんなで日々の生活で困っていること、地区のあちこちで取組まれていることの情報を出し合うことを通じて、「新たにこんなことに取組んだら、まちがよくなっていくのではないか」ということに思いあたりました。

これまで一人一人が別々に、あるいは小さなグループ活動として取組まれてきたことも、みんなが思いを共有して、力を合わせて実現することができるることもあると思い至りました。

そこで、この先5年間のわがまち高司のまちづくりのスローガンを

好きです わがまち・高小校区 小さな点から長い線へ 半歩ずつでも休まず前へのまちづくり

として、みんなで喜びも悲しみも分かち合えるまちになるよう、みんなの心と力をまちづくりにも集めていきましょう。



1. みんなで楽しく ふるさとづくり

気になること

- ・この地域には古いお祭がない。
- ・小学校と地域の交流は、学校側から呼びかけがあるが、誰もが参加するという雰囲気にはまだ至っていない。
- ・中学校行事には参加しにくい。子どもも中学生になると親に行事に来てほしくないと言う。

注目すべきこと

- ☆現在取組まれている交流イベント・お祭
- ・ミニ運動会
 - ・高小まつり
 - ・すさのお神社のお祭
 - ・小・中学校の運動会・体育祭
 - ・小学校のマラソン大会
 - ・保育園での交流イベント
 - ・美幸町・自立の家の盆踊り

ふるさとづくりへの思い

私たちはそれぞれに縁あって、このまち、高司地区で暮らしています。何代も住んでいる人から最近引っ越してきた人までさまざまですが、このまちで日々、穏やかに生活できることを望んでいます。

そのためには、それぞれの人が地域との心地よい適度な距離を保ちながら、交流を図るとともに、子ども達が地域全体に見守られながら育っていくことが重要だと思います。子どもも大人も一緒になって楽しむ場は、家族の絆とともに、自分と地域をつなぎ、地域の中で育まれ、生かされる自分を意識することができます。特にここで育つ子ども達のかけがえのない思い出、心の財産になると思います。そこで、高司をみつめなおし、「ふるさと」と思えるような取組みを強化しようと考えました。

取組みの目標

このまちに知らぬ人なし 高小校区

具体的な取組み

- ☆ 今の取組みにプラスして
- ☆ 新しい文化イベントづくり
- ☆ 中学生の活動支援
- ☆ 組織間の連携強化

今の取組みにプラスして

今、取組んでいるイベントを「ふるさとづくり」の視点で見直し、大人が楽しみ、子どもの思い出づくりとなる取組みを企画・実施していきましょう。

まずは、

小学校の運動会で「地域競技」を実施する検討を行う

次に

ミニ運動会、小学校の運動会などで「地区対抗競技」を実施する

- ・ 小学校の運動会とコミュニティや老人会が連携して、子ども、学校、保護者、地域のつながりがもてる「地域競技」を実施する機会を設ける。「地域競技」には景品を出すなどしてみんなが参加しやすい工夫をしよう。
- ・ ミニ運動会で、小・中学校の楽団による演奏会なども加えることを検討しよう。
- ・ 「マラソン大会」や「地区対抗競技」で、町会ごとに応援団を結成して応援してみよう。

新しい文化イベントづくり

子どもも大人も一緒になって楽しむ場は、家族だけでなく、地域全体の思い出となり、ここで育つ子ども達の心の財産になると思います。今取組んでいるイベントをこのような視点で見直し、思い出づくりに取組みましょう。

まずは、

地域の中でそれぞれに活動している人々の発表の場を設ける

次に

地域の歴史や文化、名所、魅力を見直す取組みを実施する

参加者の輪を広げて、文化祭的なイベントに展開していく

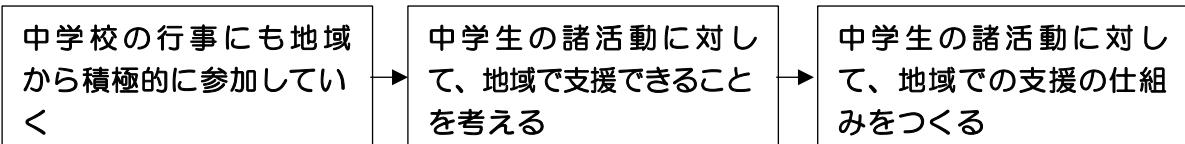
- ・ はじめは小さくてもよいから、子どもも大人も自由に参加できる文化祭的なものを開催してみよう(10月頃)。
- ・ 地域の残され、伝えられている有形・無形の歴史や文化、名所旧跡などを子ども達と一緒に再発見する活動に取組んでみよう。
- ・ 児童館や青少年でバンド活動をしているグループや趣味の会などに呼びかけ、それぞれの取組みをもっとみんなに知ってもらう場をつくろう。

中学生の活動支援

親子関係が難しくなる中学生は、同世代だけでなく、いろいろな人との交流が重要な時期です。地域の中で、さまざまな経験ができ、また地域のみんなが応援しているという支えが活動をしていく励みになればよいと思います。中学生の活動を支援する取組みを進めましょう。

まずは、

次に



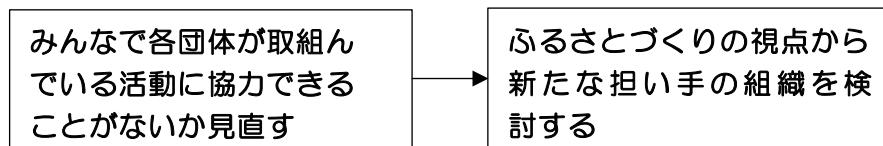
- 競技会で勝てなくても、がんばっている中学校のクラブや、クラブには入っていないが何かしたいと考えている中学生に地域ができる支援策を考えよう。

組織間の連携強化

何か1つでも地域のみんなと一緒に作業をすることで、人と人のつながりがもてます。1つでも交流イベントに参加してもらえるとそこで地域の大人と子ども達が顔見知りになり、あいさつし合えます。子ども達がここで豊かに育っていくよう、大人は真心をこめて自分も楽しみながらイベントに取組みましょう。

まずは、

次に



- 廃品回収はリサイクルの点からも各家庭が取組むべきことなので、子どもがいない家庭も子ども会の廃品回収に協力してもらおう。
- お父さん層が参加しやすい組織（例えば、幼稚園OBが結成しているおやじの会のような）を大切にし、ふるさとづくりのイベントに協力してもらおう。

2. 快適で魅力あふれる まちづくり

気になること

- ・公園や道路などに犬の粪が放置されている
- ・緑地帯、植込み、川にごみがポイ捨てされる
- ・公園が汚い

注目すべきこと

- ・家の前をきれいに花で飾っている人が増えている
- ・武庫川、河川敷がある
- ・地区の中を御所川、水路がはりめぐらされている

まちづくりへの取組み

私たちのまちは、コンパクトにさまざまな機能が整備されていて、利便性が高いまちです。地区内を川や水路が流れていますが、水と親しむ空間ではなく、ごみが捨てられています。公園や道路なども犬の粪やごみがポイ捨てされていることも多く、快適な空間として自慢できるものではありません。きれいで魅力ある空間にごみを捨てる人は少ないでしょう。マナーの向上を訴えるとともに、自分のまちに誇りがもてるような魅力あるまちにすることが大切だと考えました。

四季折々に咲く花や心安らぐ緑は、誰もが目をやり、足をとめる空間です。「きれいですね。」と言葉が交わされると、苦労も報われます。私たちの力を集めれば、毎日の苦労も分担できます。そして、その力が「ひとりぐらいは大丈夫」という心の弱さを救うことを願って、地道な活動に取組んでみようと考えました。

取組みの目標

花が咲き ほほえみあふれる 高小校区

具体的な取組み

- ☆ 犬の粪“〇（ゼロ）”なくそうキャンペーン
- ☆ ポイ捨てさせない運動
- ☆ 花のみちづくり
- ☆ ごみ減量化モデル事業

犬のウン“〇（ゼロ）”なくそうキャンペーン

犬のウンの後始末は、「1回くらいいいや」「私ぐらいいいや」という気持ちが働きやすいので、「みんなが見ているよ」ということを地域全体でアピールしていきましょう。

まずは、

犬のウンの迷惑をアピールするため、ピニール袋を配る運動に取組む

次に

ウンのとり方などのノウハウ情報を提供する

- 子どもが犬の散歩をしていることがあるが、ウンの始末の仕方は教えられていないうこともあるだろうから、犬のウンのとり方、みんなの工夫を集めて、情報提供していこう。

ポイ捨てさせない運動

ポイ捨てなどマナー向上の呼びかけは、「ダメ」「禁止」という言い方では効果がないようです。「持って帰ってくれて、ありがとう」という気持ちを伝える運動を進めてみましょう。

まずは、

コミュニティ・クリーン作戦の活動の輪を広げる

次に

小学校等と協力して、ポイ捨て禁止、美化運動のポスターをつくる

そして

まちの景観も高める運動につなげていく

- コミュニティ・クリーン作戦の実施日には旗をあげてPRしながらやろう。
- コミュニティ・クリーン作戦を大人も参加できる時間帯で取組む日もつくろう。
- 子ども達の声でまちをきれいにするポスターづくりに取組もう。
- 建て看板だけでなく、道路上に標語を書くことも検討していこう。
- 放置バイク、自転車があった場合、いつ、どこに連絡したらよいのかを知っている人は少ないので、処理の仕方をあらためて整理し、みんなに伝えよう。

花のみちづくり

私たちのまちには、コミュニティガーデンや家の前できれいな花を育てて飾ったり、幹線道路での緑化が進んでいます。これをもっとひろげて、みんなが快適にまちを歩くことができるよう、花の道づくりに取組みましょう。

まずは、

花を育て飾ることが好きな人を募って活動の輪を広げる

次に

高司中学校東側道路を花の道のモデルロードにして取組みを広げる

地域内の他の道・公園などでも、取組みを広げる

- ・ 緑花活動には地元企業・事業所とも連携していこう。
- ・ 清く正しく美しい「すみれ」など、統一テーマを打ち出して、モデルロードづくりをやってみよう。

ごみ減量化モデル事業

ごみの有料化をきっかけとして、地域のみんなと一緒にコンポストで生ゴミ堆肥をつくり、地域でそれを活用する仕組みをつくりゴミを減量化させましょう。

まずは、

生ゴミコンポスト参加者を募集する

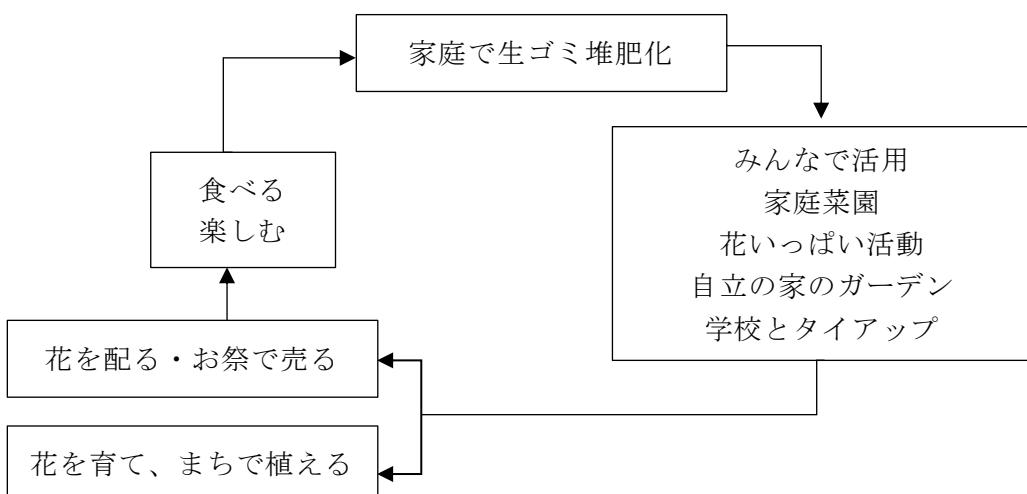
次に

花いっぱい活動、ガーデンづくりで活用し、地域で花を育て、売る

そして

地域の生ゴミ堆肥を活用する場を広げる

地域での生ゴミの堆肥化による循環イメージ



3. みんなが気軽に集う 場所づくり

今の状況

- ・ 小学校や児童館にコミュニティの拠点施設の併設を協議したが、建築基準法の制限がクリアできない。
- ・ 仁川の「ピアノの家」のように民力で運営する楽しい場所にしたい。

注目すべきもの

☆地域にある“集い”の施設

- ・ 高司小学校
- ・ 高司中学校
- ・ 高司児童館
- ・ わかくさ保育所
- ・ さくら保育園
- ・ はんしん自立の家
- ・ 2つの自治会館

注目すべきこと

- ・ 高司会館でくるみサロンが実施されている。
- ・ 自立の家では月1回日曜日に歌声喫茶、毎週金曜日2~4時にコーヒー喫茶をもケーキ、スコーンづくりなども取組んでいる。

場所づくりへの思い

高司小学校区まちづくり協議会が、専用の活動拠点を持つことは関係者の悲願でした。事務所機能の重要性とともに、「いつでもそこにいければ、誰かが居て、話ができる、いろいろな情報がある」空間を求める声は大きく、それに応えていきたいという思いです。子どもには児童館が整備されています。自治会館やはんしん自立の家ではサロンが開かれ、趣味のクラブ活動などにも取組まれています。これらの活動と連携を図りながら、常時誰かがそこで何らかの活動をしていて、いつでも気軽に立ち寄れる場所がある安心感と、そこでの何気ないふれあいに心みたされる時間をもつことができることをめざして、一歩ずつでも思いつなげ、具体化させていきたいと思います。

取組みの目標

みんなの知恵と力が集まって 活気と熱気の 高小校区

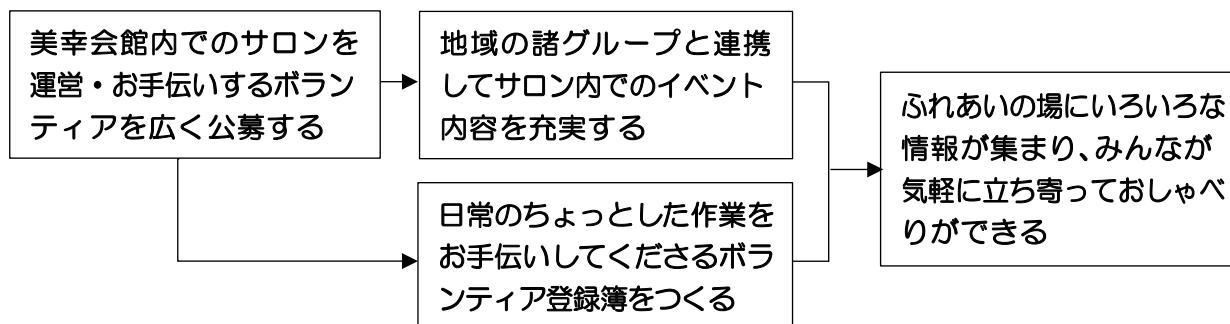
具体的な取組み

- ☆ ふれあいの場の充実
- ☆ 新たなコミュニティの拠点づくり

ふれあいの場の充実

できる限り身近な場所で、気軽に寄ってはおしゃべりをすることができる場をつくるため、既存のサロンのPR、サロン活動にさまざまな形で参加してくださる人の募集、サロンの新規開設に取組みましょう。

まずは、

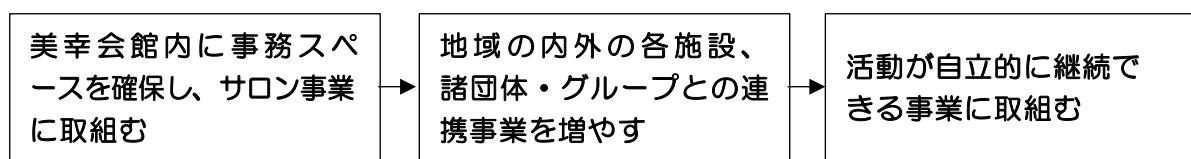


- ・ 高齢者の世帯では、日常生活でちょっと手伝ってもらえばよいと思うことがあるが、誰に言ったらよいかわからないことが多い
- ・ 美幸会館でもサロンをひらく
- ・ ボランティアさんは地域から広く募り、当番制にすることで開催日を増やす
- ・ 趣味の会の人にも声をかけて、お楽しみ活動を企画・実施してもらう
- ・ ご近所さんのお得意を紹介して、ちょっと手伝ってが言える様にする
- ・ ボランティアとお客様という関係をつくってしまうとボランティアをする人が大変になる

新たなコミュニティの拠点づくり

コミュニティ活動の拠点となる事務所を設置し、地域の各施設や諸団体、地域外との連携を強め、みんなが豊かに暮らせる事業を充実させましょう。

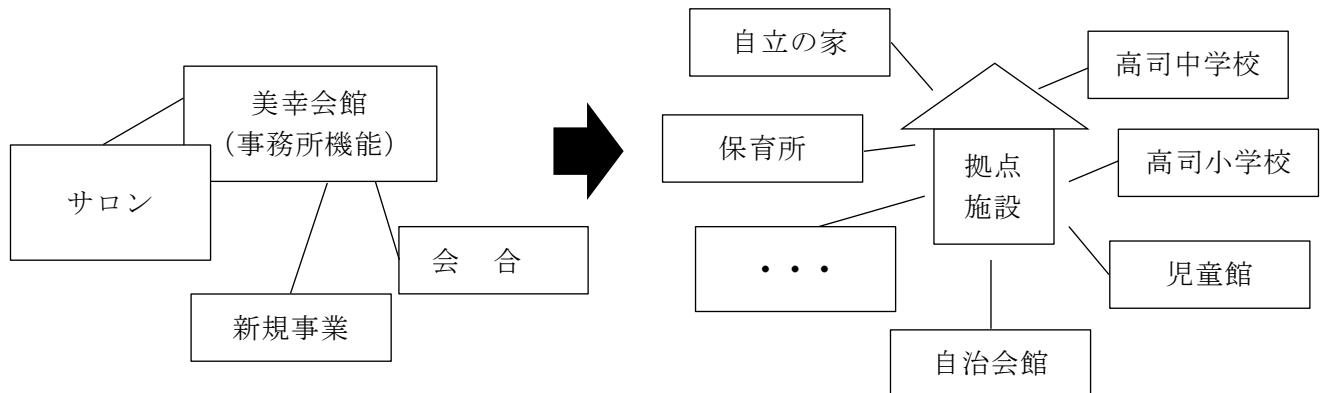
まずは、



- ・ フリースペースを置けるような拠点施設を探そう。
- ・ 自分たちで運営している事例を視察しよう。
- ・ 将来的にも継続していくためには、家賃、水光熱費、電話・コピーで最低月7~8万円は事業費を捻出・確保する必要があり、維持費は自分たちで稼げるような事

業の取組み方を勉強しよう。

- スポーツ 21 など他団体とのタイアップも検討しよう。
- トライ・やる・ウィークの生徒や大学生のインターンシップを事業の中で受け入れていこう。
- ひとりでも多くの人が参加できる核となるグループづくりを進めよう。
- 拠点施設をもっても学校や児童館、自立の家などとの連携を図って、地域全体の活動を広げよう。



4. 安全と信頼でつながる 暮らしづくり

気になること

- 育成会に行っていた子の下校時の見守りが手薄になっている。
- 小学校区の交通上の安全マップが改定され詳しくなったが、子どもは校区外へも出かけている。
- 駐車車両などによって死角になるような場所がある

注目すべきこと

- PTA 保護者全員で登校時の交通整理を行っている。
- コミュニティの防犯部で 6 名が元気に地域の安全見守り活動を展開している。
- アトム 110 番の登録者が増えている。
- 事件の発生件数は比較的少ない。

暮らしづくりへの取組み

自分の暮らすまちで犯罪が起こってほしくないという願いは、誰もが抱く最も基本的なものです。全国各地でも、自分たちが暮らすまちの防犯について、さまざまな工夫・取組みが展開されています。それらに共通することは、いつも、誰かが「地域を見ているよ」ということを外部にアピールすることです。そしてできれば見守り活動が、「やってあげる—やってもらう」という一方通行のものではなく、子どもから高齢者まで、どのような年齢の人も、ご近所さんとのお互い様の気配りになって、お互いに顔を見ないとさみしく思えるような関係になっていけばよいと思います。

無理せず、継続的に、みんなが少しずつわがまちの安全に気を配る時間をもつことをあらためてみんなで確認し、ひとりひとりが具体的に行動することができる取組みを考えました。

取組みの目標

ひとりひとりの見守りで 不審者が入り込めない 高小校区

具体的な取組み

- ☆ 見守り体制の強化
- ☆ 定期的な防犯・安全教育の実施
- ☆ 生活圏の情報把握と共有化

見守り体制の強化

小学生の見守りに参加してくださる人を増やすとともに、子どもと大人が一緒になって楽しんだり、学んだりする機会を通じて交流を深め、お互いに顔見知りになり、日常的にも気軽に話しかけられるような関係づくりに取組んでいきましょう。

まずは、

子ども達の登下校時の見守り活動参加者を拡大していく

次に

子どもと大人の交流の機会を充実する

そして

子どもから高齢者まですべての人が顔見知りになり、お互いを気遣う

- 子ども達の登下校時の見守り活動に参加してもらえるように諸団体に呼びかけ、犬の散歩時や花の水遣り時に参加してくださる人を増やそう。
- 見守り活動を実施していることをアピールするため、ユニフォームや腕章などを統一し、それをつけて見守り活動をしてくれる人を募ろう。
- 見守り活動に参加してくださる人と子ども達が一緒に活動する機会を設け、相互の交流を深めよう。

定期的な防犯・安全教育の実施

- 子どもから高齢者まで、いろいろな人が日頃の防犯の役立つ情報や何かあった時の対処方法などを学ぶ機会を定期的に設けよう。

生活圏の情報把握と共有化

小・中学生の生活圏は校宮内にとどまっているのが実情です。各団体ごとにネットワークを活用して、周辺地域のさまざまな情報を把握し、それを集約して生活圏全体の把握につとめ、みんなが共有できるよう、情報発信していきましょう。

まずは、

安全マップの活用方策を検討する

次に

みんなが、それぞれの立場で地域内をみつめなおす機会をもちましょう

そして

各団体がそれぞれに収集した情報を集約して、みんなで共有する

- 安全マップをこのまま配布しても、不安をつのらせるか、そのまま無視してしまうかになるので、みんながそれをうまく活用できる方法について、地域の諸団体とともに検討しよう。

- ・ 中学校区や子どもの生活範囲である近隣地域を含めたより広いエリアの情報を把握していこう。
- ・ 各団体が収集した情報を他の団体と共有していくための取組みを進めよう。

5. 安全行き交う 道づくり

気になること

☆全体として

- 歩道がせまく、がたがたしている（車椅子で通行する場合、やむをえず車道を通りなければならないほどのところもある）。
- 歩道に車をのりあげて駐車していることがある。

☆個別に

- ア 小学校西側・南側道路は、道路整備がされ、車やバイクがスピードを出して通過する。T字路には信号がなく、きちんと減速しないため、雨の日にバイクが転倒していることがある。
- イ 小学校南側道路を横断する通学路があるので、横断歩道の増設に早急に取組んではほしい。
- ウ 西宮宝塚線は交通量が多いため、横断歩道だけでは渡りにくい。既存の横断歩道に押しボタン式信号機を設置してもらいたい。
- エ 宝塚池田線に接続するところで、歩道につながっているので、自転車と歩行者の出会い頭の事故が起こっている。路面に注意を喚起する表示をしてはどうか。特に青信号の場合には一旦停止をしないので危険だ。
- オ 中野線は道路復員が狭いが、歩行者、自転車、単車、自動車が頻繁に行きかい、交通上の要注意箇所が多い。
- カ 公園周辺にトラック、自動車がよく駐車しており、子どもが遊んでいる姿が見えにくく、公園への出入りの死角になる。
- キ 塩瀬門戸荘線にある横断歩道橋はほとんど利用されていない。歩道の段差解消も進んでいない。歩道橋の老朽化も進んでおり、撤去してはどうか。
- ク 武庫川新橋たもとの半地下道の北側通路は急勾配になっており、車椅子や高齢者は通行が困難である。
- ケ 庭の木が歩行空間に大きくはみ出している場所がある。

道づくりへの思い

子どもも高齢者も障害をもっている人も、みんながまちの中を自由に歩き、美しい花をながめ、武庫川の風に吹かれ、公園で友達とたわむれ、語り合いたいものです。このようなささいな思いをつなぐのが「道」です。はんしん自立の家との共同作業として、地区内の道路の段差チェックを行いました。少しづつ改善がなされていますが、早急に取組んでもらいたい改善やまちの発展に伴って新たに整備してもらいたい交通安全施設などがあります。定期的にチェックを行い、要望をあげていく必要があります。

また、交通事故を未然に防ぐ努力は歩行者や自転車運転者にも必要だと痛感しています。子どもだけでなく、大人や高齢者も自転車走行時の交通ルールが守られていないことを自戒して、新たな取組みを考えました。

取組みの目標

やさしさあふれる ユニバーサルなまち 高小校区

具体的な取組み

- ☆ 道路のバリアフリー化
- ☆ 交通安全施設の増設
- ☆ 交通安全に関する教育の取組み

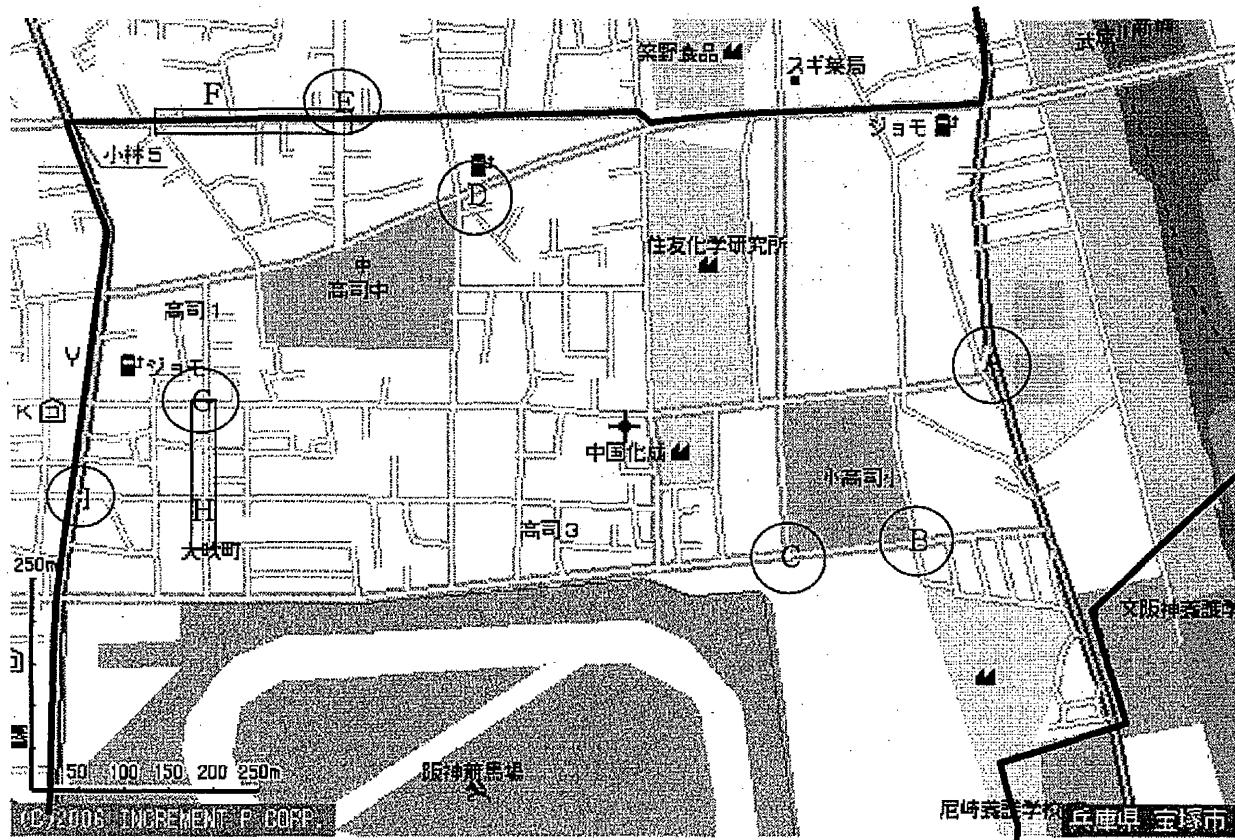
* 「ユニバーサルなまち」とは「誰もが使いやすいまち」という意味です

道路のバリアフリー化

- ・ 今後も引き続き、道路のバリアフリー化、交通量の多い道路での歩道整備状況を定期的に確認し、要望を出していきましょう。
- ・ 歩道が狭い箇所では、水路にふたをして歩行空間を確保するなど、地域でも協力できること・アイデアを出していこう。
- ・ 水路があることを気づいてもらうため、部分的に柵を設け、花などを飾ることを具体的に検討してみよう。

交通安全施設の増設

- 次の点については、早急に取組んでもらえるよう地域全体として要望を出していく。
- みんなが安全に地域の中を移動できるよう、地域の開発状況に目を配り、適宜交通安全施設の増設を要望していく。



- A : 交通量の多い道路を横断するので、高齢者や子どもには危険である。現状の横断歩道に押しボタン式信号を設置してもらえるよう求めていく。
- B : 小学校への通学路となっているので、横断歩道の設置を求めていく。
- C : 特にバイクがスピードを出したままT字路を曲がることが多いので、横断歩道、できれば信号機の設置を求めていく。
- D : 歩道に飛び出す自転車に一旦停止の注意を促すため、路面にサインの設置を求めていく。
- E : 交通量が多く、右左折時の事故も発生しているので、信号機の設置を求めていく。
- F : 道路の幅員に比して、歩行者、自転車、バイク、自動車などの交通量が多いので、何らかの対策ができないか、関係機関と協議をしていく。
- G : 交通事故が多い交差点なので、自動車に注意を促すサインの設置を求めていく。
- H : 歩行者や自動車が転落しないよう水路に柵をするなど、関係機関と協議をしていく。
- I : ほとんど活用されていない陸橋なので撤去し、周辺の歩道段差の解消のための空間を確保してもらうよう、協議していく。

交通安全に関する教育の取組み

自動車運転者だけでなく、道を歩いている人、自転車に乗っている人も交通マナーを守り、また事故にあわないようにするために、小学生だけでなく、幼児、高齢者、若い人などにも参加を呼びかけて、地域の交通安全教室の開催に取組みましょう。

まずは、

警察や消防署など連携し、講習内容を検討する

次に

コミュニティで実施している祭や行事で、ミニ講習会を実施する

そして

小学校の授業などで取組める講習プログラムを工夫する

- ・ 小学校区単位で交通安全セミナーを実施するため、警察や消防署など関係機関と連携して、コンテスト形式などのミニ講習会のプログラムづくりを行っていこう。
- ・ コミュニティで実施している祭や行事などを活用して、年に2回、定期的にミニプログラムを実施していこう。
- ・ 小学生には全員に交通事故から自分を守る術を身に着けてもらうため、学校の授業でも実施できるようなプログラムづくりを行おう。

計画を実施していくために

まちづくり計画を1歩ずつ着実に実施していくために、次の取組みを実施します。

1. まちづくり計画のPR

まちづくり計画策定委員は、それぞれに分担して、まちづくり計画を地域の各組織・グループに説明し、意見交換を行っていきましょう。

2. テーマ別検討会の設置

まちづくり計画策定会議はテーマ別検討会に発展させ、各委員はこれまでの活動、今後の活動をふまえてテーマ別検討会に参加し、より具体的な活動を検討していきましょう。

3. まちづくり協議会部会活動の強化

テーマ別検討会とまちづくり協議会の各部会は、連携して関連する組織・グループとの情報交換、意見交換を行い、具体的な活動の強化・発展に取組みましょう。

4. 計画の進捗状況に関する情報交換会の設置

まちづくり協議会が地域の組織・グループに声をかけて、まちづくり計画の実施状況を確認する会議を開催しましょう。

地域の諸団体にそれぞれの取組みに関する情報を提供していただく機会も設け、まちの課題をつねにみんなで把握し、その解決策を議論し、次の取組み方針をみんなで確認していく場を設けましょう。

まちづくり計画策定委員名簿

(順不同)

名 前	所 属	名 前	所 属
中 平 恵 子	ファミリープラザ宝塚自治会	村 瀬 順 枝	民生児童委員
衣 川 主 海	ファミリープラザ宝塚自治会	岩 元 信 子	民生児童委員
池 内 徳 夫	高司自治会	島 川 八重子	高司婦人会
久 米 守	高司自治会	二 川 恭 子	高司小学校 PTA
津国 千恵子	高小校区人権啓発推進委員	志 方 雅 一	高司中学校 PTA
矢 野 行 雄	美幸町自治会	岩 佐 武 美	スポーツクラブ 21
木 本 美 好	高司 2 丁目	石 田 大 輔	高司自治会
中 本 忠 雄	美幸町自治会	知 念 末 子	阪神自立の家 (職員)
牟 禮 絹 恵	くすのき自治会	柚 口 千 夏	阪神自立の家 (職員)
岸 本 栄 子	くすのき自治会	吉 田 薫	阪神自立の家 (入居者)
柳 楽 操	宝清自治会	玉 川 紀 子	阪神自立の家 (入居者)
平 石 美 佐 子	補導委員	早 川 浩 介	阪神自立の家 (利用者)
足 立 信 子	補導委員	山 脇 文 子	くすのき自治会
		米 田 信 雄	美幸町自治会